

探究課題の発見機会に

錦江湾高校

(鹿児島市)

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校として課題研

究に力を入れており、興味が湧くテーマ探しに新聞を活用した。全校生徒が週1回、朝の15分間記事を読み、感想をつづったり、気になった部分を調べたりする取り組みを続けた。

1年普通科では、記事から研究テーマを探し、班ごとに発表する「新聞ポスターコンテスト」も実施した。小山実月さんは、和食への関心を高める策を考えた。「新聞を通じ、関心がなかったことにも興味を持てた」と振り返った。

哥丸翔暉さんは、新聞や本を読むことで読解力は向上するのか課題を立て、国語のテストで測定する検証法を提案。「貴重な経験ができた」と語った。

(赤間早也香)



班ごとに選んだテーマについて、内容を掘り下げて発表する生徒
＝鹿児島市の錦江湾高校

鹿児島県内で2024年度にNIE（教育に新聞を）実践校に指定された13校が、新聞を活用した授業などに取り組んだ。各校が進める活動や授業の様子を紹介する。

かごしま



NIE実践校

社会深く知るツールに

鴨池中学校

(鹿児島市)

実践校1年目。語彙力や読解力、社会問題に対する興味関心の向上

を目標に掲げ、1年生を対象に、本紙1面コラム「南風録」の書写などに取り組んだ。

郷土について学ぶ「総合的な学習の時間」では、生徒が5、6人のグループに分かれ、鹿児島の方言や偉人、自然などのテーマごとに新聞を作成した。テーマに関連した実際の新聞記事を参考に執筆し、見出しやレイアウトにもこだわった。

「伝統芸能新聞」に携わった松田翔馬さんは、おはら祭の起源や歴史を担当。「情報を整理し、簡潔に文章にまとめる難しさを学べた」と満足そうだった。

国語科の服部紋乃教諭(24)は「生徒にとって新聞が、社会を深く知るツールになっている」と語った。

(出水柊)



作った新聞の感想を述べ合う生徒たち
＝鹿児島市の鴨池中学校